



生駒市立鹿ノ台中学校 第10号



校長室だより

令和6年2月14日

マナーとは

マナーとは「集団生活をより豊かに過ごすための思いやり」のことです。おそらく、みなさんの人生の中で中学生の頃ほどマナーについて考える時期はないと思います。そもそも、何のためにマナーを学ぶのでしょうか。少し古い記事ですが、毎日新聞の『東日本大震災から2年 日本から学ぶ10のこと』という記事によると、大震災が発生し、大混乱に陥(おちい)った被災地での日本人の「マナーをわきまえた行動」が世界に発信され、「日本から学ぶ10のこと」が世界の多くの人に深い感動を与えたそうです。ここでは10のうち、4つを紹介します。

1つ目は、「秩序(ちつじょ)」です。震災後、お店では略奪もなく、無理な追い越しをする車もなかった。2つ目は、「威厳(いげん)」です。被災された人たちは配給される水や食料をもらうために静かに列を作って並びます。そこには乱暴な言葉や無作法な行動はありませんでした。3つ目は「良心(りょうしん)」です。お店のレジに並んでいた人々は、地震で停電になった時、品物を棚に戻して静かに店を出たそうです。4つ目は、「平静(へいせい)」です。悲痛や悲嘆にくれているはずなのに、その姿は、努めて平静で、自らの内面へと向かい、悲しみそのものがとても気高いと感じたそうです。私は、そのような悲痛や悲嘆の場面で、自分がはたして同じように振る舞うことができるだろうかと考えさせられました。

中学時代にマナーの意味を深く考えることを通して、それがやがて一人一人の「人格」となり、人としての「品格」となって表れるのではないのでしょうか。みなさんはこれからの人生の中で、たくさんの幸福、そして困難に遭遇すると思います。そうした際に、学んできたマナーの意義、仲間に対する気持ちや思いやりのある行動を考えてほしいと思います。その気持ちや行動がやがてみなさんの品格となり、たくさんの大切な人々を幸せに導いてくれることと思います。

3年生の挑戦

3年生の入試が今、まさに本番を迎えています。すでに進路が決定した人もいます。3学期に入り、入試に備え、校長室で面接練習を行っています。受験のためだけでなく、相手の問いに対して自分の考えていることが的確に伝えられるか、対応のマナーができているかなど、さまざまな観点からこの面接練習を大切にしています。生徒は、姿勢・歩き方・礼などの立ち振る舞い、質問に答える言葉づかい、答える内容にも気を付けながら、本番さながらの緊張感をもって臨んでくれています。入試などで面接する側は、短い時間のやりとりの中でその人の人柄や本気・やる気・熱意を瞬時で見抜きます。今回の面接練習では、どの生徒も「限られた数分間」の中で、口先だけの言葉でとりつくろうことなく、「普段通りの自分」を素直に表現できていて、すばらしいと感じました。

これらのことは、「その時だけ特別」とか「その時のためだけに用意された」ものではなく、普段からごくごく当たり前で日常生活の中で考えたり行動していたりするからこそ、自然にふるまえるみなさんの「素直な心」の表れだと思えます。このことは社会に出てからも、きっとみなさんの強い味方になってくれるはずです。



保護者の皆さまへ

平素は本校教育にご支援・ご理解を賜り、誠にありがとうございます。

1月26日開催の1・2年生 学年懇談会へのご出席、ならびに学校評価アンケートの回答にご協力いただき、ありがとうございました。今年度も残すところ2か月足らずとなり、いよいよまとめの時期となります。教職員も今年度の教育活動を総括し、次年度に向けて検討を重ねているところです。

今後ともご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

